

～歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島づくり～

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

評価検証（案）



令和2年〇月

目次

第1章

1. はじめに 1
2. 第1期「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のKPIの検証について 1

第2章

1. 基本目標1
島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出する 4
2. 基本目標2
世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する 9
3. 基本目標3
生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援する 13
4. 基本目標4
特色ある持続可能な地域をつくり、島の安全・安心を確保する 17

第3章

1. おわりに 20

1. はじめに

「まち・ひと・しごと創生総合戦略(2018改訂版)」において、2019年度は、第1期「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の最終年であったことから、これまでの地方創生の取組の成果や課題を調査・分析し、第1期の総仕上げに取り組むとともに、第2期「総合戦略」の策定のため評価検証を行いました。

2. 第1期「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のKPIの検証について

(1)第1期「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のKPIの概要について

①総合戦略では、次の4つの「基本目標」を明確に設定し、それを達成するための基本的方向、施策別の取組を提示するとともに、それぞれの進捗について、2019年度を目標年次として、市として実現すべきアウトカム指標を原則として、重要業績評価指標(KPI)を設定しました。

【基本目標1】

島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出する。

【基本目標2】

世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する。

【基本目標3】

生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援する。

【基本目標4】

特色ある持続可能な地域をつくり、島の安全・安心を確保する。

KPIは、総数が50件であり、このうち4つの基本目標に係るKPIが10件、その下の各施策に係るものが40件となっています。

②今般の検証においてKPIを総点検するに当たっては、KPIを進捗状況に応じて次の4つに分類し、総点検を実施し評価を行いました。

- ①目標を達成しているもの・・・・・・・・・・達成
- ②目標を80%以上100%未満達成しているもの・・概ね達成
- ③目標を達成していない・・・・・・・・・・未達成
- ④その他(現時点で実績値の把握が困難)・・・・・・・・調査中

③上記の分類に従うと、全体としては①が 15 件（30%）、②が 8 件（16%）、③が 26 件（52%）、④が 1 件（2%）でした。

基本目標ごとの、件数及び達成割合については、次のとおりとなっており、基本目標 1、2、4 については概ね目標達成に向けて施策が進展しているものの、基本目標 3 の基本目標の KPI については、効果が十分に発現するまでに至っていませんでした。

基本目標 1 <島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出する>

	基本目標の KPI	各施策の KPI
①	1 件（50%）	4 件（22%）
②	0 件（0%）	5 件（28%）
③	1 件（50%）	8 件（44%）
④	0 件（0%）	1 件（6%）

基本目標 2 <世界的 3 資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する>

	基本目標の KPI	各施策の KPI
①	1 件（25%）	4 件（50%）
②	1 件（25%）	0 件（0%）
③	2 件（50%）	4 件（50%）
④	0 件（0%）	0 件（0%）

基本目標 3 <生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援する>

	基本目標の KPI	各施策の KPI
①	0 件（0%）	3 件（37%）
②	0 件（0%）	0 件（0%）
③	2 件（100%）	5 件（63%）
④	0 件（0%）	0 件（0%）

基本目標 4 <特色ある持続可能な地域をつくり、島の安全・安心を確保する>

	基本目標の KPI	各施策の KPI
①	0 件（0%）	2 件（33%）
②	1 件（50%）	1 件（17%）
③	1 件（50%）	3 件（50%）
④	0 件（0%）	0 件（0%）

(2)第2期「総合戦略」における KPI 検証のあり方について

第2期「総合戦略」においても、引き続き、「総合戦略」において設定している基本目標や KPI について、定期的な検証を行い、外部有識者の意見を踏まえつつ、必要な見直しを行います。

その際は、インプット目標とアウトプット指標が混在している、現在値がとられていない場合は評価が難しいなど、KPI の立て方を検証し適切な KPI の設定に努める必要があります。

第2章

基本目標1 島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出する

<基本目標の KPI>

No.	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
1	新規就農経営体数 (経営体)	16	16	11	6	6	2	34	③	実績としては、例年を大きく下回った。今後は、就農イベントへの積極的な出展とあわせ、就農パンフを刷新するなど情報発信の強化に努める。
2	新規起業、第二創業及び企業誘致した数 (件)(累計)	3	15	23	39	61	69	50	①	特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用することにより目標を達成できた。今年度も交付金を活用して実績を伸ばしていきたい

【総合分析・評価】

○新規就農については、他産業との人材確保競争の激化など社会情勢の変化により伸び悩みが見えています。また、農業経営の組織化についても、地域に積極的に働きかけを実施しましたが目標は未達成となりました。しかし、中山間地域等直接支払制度の第5期対策や人・農地プランの実質化の取組みにおいて、集落営農や組織化を検討する地域が増えていることから、新潟県や農業協同組合と連携し、個人並びに組織化の両面で担い手の確保を進めます。

○特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用したことで、新規起業、第二創業及び企業誘致した実績は目標を大きく上回る結果となりました。今後も引き続き、交付金を活用し雇用の場を確保するだけでなく、UI ターン等の推進による専門的技術を有する人材を確保し、市内に元気な産業と安定した雇用の創出を推進します。

<各施策の KPI>

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
1	ア高品質な佐渡米の生産推進による農業経営の安定化	認定農業者数（人）	941	1,123	1,172	1,161	1,129	1,044	1,300	②	農家数が減少する中、認定農業者の増加は見込めない。認定されるべき農家は、すでに認定されているのが現状である。
2		コシヒカリの1等米比率（%）	66	88	80	89	79	47.6	90	③	異常高温の影響により、著しく低下した。今後も基本技術の励行により、高位平準化を目指す。
3		米色彩選別機の導入（導入済件数）（台）	0	58	96	119	122	124	120	①	目標数は達成した。色彩選別機を活用することにより、品質の高位平準化を図る。
4		「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」取組農家（戸）	539	524	524	488	436	407	800	③	離農者と比例し、取り組む農家が減少傾向にある。減少の歯止めとなる、制度の見直しを検討する。
5		「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」の販売店舗数（店舗）	297	328	328	290	322	299	380	③	関西以西をターゲットに新規店舗の拡大を進める。
6	イ品質向上と多様な販売戦略による畜産・園芸の振興	繁殖牛飼育頭数（頭）	371	362	371	466	745	895	540	①	目標数は達成した。補助金を有効に活用してもらい、増頭や経営の維持を図る。
7		乳牛飼育頭数（頭）	337	322	291	285	265	272	340	②	堆肥問題等により増頭が進まない。今後は、水稲や園芸での堆肥肥料の仕組みづくりの検討を進める。
8		おけさ柿栽培面積（ha）	383	377	362	356	345	333	385	②	担い手不足から、減少傾向である。今後は、担い手の育成とあわせ、優良園地の維持を検討していく。

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
9	ウ循環型社会を支える林業の振興	木材の素材生産量 (m ³ /年)	3,000	3,875	2,375	3,910	4,665	調査中 ※確定次第追記	7,000	④	林地残材をバイオマス発電工場に買取してもらう取組み等、新たな事業を実施したことで計画策定時の1.5倍程度まで底上げはできたが、目標達成には至らなかった。今後は、林業機械等のレンタル支援、林業事業者の生産性を向上させるための研修等にかかる旅費補助等を実施し、事業効率を高めることで素材生産量の増加につなげていく。
10		佐渡産材利用新築戸数 (戸/年)	4	5	5	5	3	2	7	③	新築着工件数が年々減少していることもあり、補助事業を行ってきたが目標を達成することができなかった。今後については、森林環境譲与税を活用し、より使いやすい補助事業を行うことで木材の地産地消を促す。
11	エ佐渡水産物のブランド力と販売力の強化による水産の振興	漁獲量 (t)	7,300	7,200	7,200	6,300	5,738	5,814	7,500	③	高齢化等により漁業者の減少が顕著になっていることから漁獲量が減少していると思われる。今後は担い手支援制度により後継者の確保・育成を図る。
12		漁獲金額 (億円)	32	32	31	31	31	32	35	②	神経締めの実施や流動氷の導入等により市場での評価が少しずつ向上している。今後は金庫網の導入等による出荷調整や安定した養殖漁業の推進に取り組む

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
13	才起業・第二創業や企業誘致等による若者等の雇用の促進	商店街等の新規開業者数（件）	3	15	23	16	4	8	50	③	商工会と連携し、国や市の補助制度の周知を図り、新規開業者数を増やしていきたい。
14	カ6次産業化を中心とした高付加価値化・販売体制の構築	新たに雇用を創出する農商工連携又は6次産業化を行う企業・団体数（件）	1	1	1	1	2	4	5	②	特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用することにより概ね目標を達成できた。今年度も交付金を活用して実績を伸ばしていきたい
15		学校給食での佐渡産野菜使用率（％）	25.5	25.2	28.8	25.7	22.2	21.1	30	③	天候不順により、使用率が低下した。安定供給ができるよう、関係機関が連携し生産拡大を進める。
16	キ産業振興のための人材の育成	中学生の職場体験日数（日/年）	2.2	2.4	2.3	2.4	2.5	2.5	5	③	実際に職場に出向いての体験日は2.5日であるが、佐渡市が取り組んでいる課題解決型職場体験の取組では、事前・事後学習や生き方・働き方トーク等があり、それらの内容を加えると、各校平均6.7日取り組んでいる。今後は、事前・事後学習の時間も加えて実績をあげていきたい。
17		ものづくり支援センター相談件数（件/年）	-	52	138	109	152	147	50	①	説明会やセミナー等において制度周知を行うことにより目標を達成することができた。

No.	政策別の 取組	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
18	ク高齢者・ 障がい者・ 女性の活躍 を支援	ハッピーパートナー企業登録数 (団体)	21	25	26	28	28	31	30	①	ホームページやパンフレットの配布等によって周知を図った結果、目標を達することができた。現状、建設業界以外の登録数が少ない。令和元年度中に制度改正がなされ、登録のメリットが拡充されたため、他業種を含め、より多くの団体の登録を目指して周知を継続していく。

基本目標2 世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する

<基本目標のKPI>

No.	指標	計画策定時	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
1	観光入込数（万人）	53	50.4	50	48.8	49.1	48.9	70	③	地震や台風などの災害が多く、また、好調だった台湾便の運休の影響の割には健闘した実績と思える。今後の戦略は、入込数より滞在時間の延長に伴う消費の増大を重視すべきと考えている。
2	佐渡観光旅館連盟加盟旅館延べ宿泊数（泊）	364,493	308,191	291,106	272,286	290,656	290,233	492,000	③	観光旅館連盟の加盟宿泊施設は減少傾向にあり、滞在時間の延長とデータに乖離があると考えられる。多様化するニーズを捉えられる出展を検討する必要があると考える。
3	リピート率（%）	37.8	39.0	42.4	34.0	33.7	33.8	55.0	③	インバウンドの増加に伴いリピート率が結果的に低下している傾向にある。
4	観光客1人当たり平均宿泊数（泊）	1.56	1.60	1.82	-	1.73	1.72	1.61	①	地域資源の活用と体験観光を推進することで、滞在時間の延長が図られていると考えられる。方針としては正しいので今後も継続的に拡大する。

【総合分析・評価】

○好調であった新潟－台湾便運休の影響もあり、観光客入込数は目標に達しませんでした。しかしながら、1人当たりの滞在時間が図られたことで、旅行消費額や来訪者満足度は目標を概ね達成しており、自然を活用したマリンスポーツや佐渡の伝統文化である薪能、鬼太

鼓、郷土料理の提供など地域資源を活用した滞在交流型プログラムの取り組み成果は確実に表れています。佐渡観光旅館連盟加盟旅館延べ宿泊数は、観光客の宿泊ニーズが多様化している状況で、調査対象外である簡易宿泊施設が含まれていないことから、各種データの継続的な収集・分析、データに基づく目標の設定や戦略など見直しを図る必要があります。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、グローバル化による社会的なリスクの影響を受けることから、これまでの観光戦略について練り直しを検討していきます。引き続き、令和元年度より導入した、観光地域通貨「だっちゃコイン」による消費傾向を分析する仕組みの活用を含め、観光客の動向を調査分析したうえで、ニーズに沿った観光施策を展開します。

<各施策の KPI>

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
1	ア島の魅力の発信	市及び観光協会ホームページのページビュー件数（件/月）	458,783	668,156	835,239	1,953,467	690,914	664,310	500,000	①	情報発信の専門員を配置して日々の更新を、国内向け、海外向けに行っている。今後も継続的な取り組みとしたい。
2		地域ブランド調査市区町村の魅力度ランキング（位）	ランク外	96	ランク外	ランク外	ランク外	ランク外	上位 100 位以内	①	シティセールスは、観光のみではないと考える。もっと全庁的な戦略が必要であると思う。
3	イ周遊滞在型観光の充実	年間 100 人以上が参加する着地型商品数（コース）	6	3	1	7	4	4	10	①	マストツーリズムは今後も増大する想定ができない。年間 100 人以上が参加することを KPI とするより、滞在時間の延長につながるプログラムの開発等を目標にした
4		外国人観光客数（人/年）	1,510	6,065	5,906	18,304	25,332	19,296	5,000	①	元年度は台湾定期便の運休に伴い減少に転じたが、現地とのパイプができるとともにどの地域にどうアプローチすべきかもノウハウが蓄積できている。
5		航路総輸送人員（万人/年）	158	156	150	147	148	147	200	③	輸送人員の減少幅は小さくなり、運賃低廉化や観光施策等による成果が表れているので、目標に向けて関係施策を継続する。

No.	政策別の 取組	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
6	ウ観光客の 受入環境の 整備とおも てなしの醸 成	観光・文化施設満足度 (%)	63.6	66.4	63.4	62.7	69.5	89.6	67	①	達成しているが、老朽施設 が目立ち今後は計画的に整 備していく必要がある。
7		主要観光拠点トイレの洋式化箇所数 (市営)(箇所)	15	16	23	27	28	28	28	①	観光拠点としてのトイレ改 修は目途が立っているが、 市全体での運用の検討に入 る段階であると考えてい る。
8		3資産を語るガイド数	-	0	0	0	6	7	50	①	佐渡金銀山ガイドとして3 つの資産を語るガイドを 52名要請済み。7人は3ガ イド団体に登録した人数。

基本目標3 生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援する

<基本目標の KPI>

No.	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
1	合計特殊出生率	1.88	1.88	1.75	1.87	1.64	1.54	2.08	③	年々減少傾向にあるが、2018年の国・県との比較では国より0.22、県より0.23ポイント高い状況である。今後も子育て支援の充実を進めていきたい。
2	社会減数（人/年）	▲約 370	▲348	▲318	▲308	▲348	▲240	▲185	③	島民カードの普及により市内に住所を有する市民が増え、目標値は未達成であるが若干の改善がみられる。しかし、若者の市外への流出が人口減少の大きな要因となっている。若者のUターンに向けた取組が必要。

【総合分析・評価】

○当市における合計特殊出生率は1.74（5カ年平均）と全国、新潟県と比較すると高い結果となっています。出生率に大きく影響する要因として、①地域雇用、②育児期の女性の就業、③親からの支援の3つが関係していると考えられますが、②育児期の女性の就業については、2019年度実施しました佐渡市男女共同参画に関する市民意識調査結果において、「共働きで、共に家庭を守る」ことが最も理想と回答した人が約70%を占める一方で、現状としては「共働きで、主に妻が家事・育児」をするのが現状に近いと回答する人の割合が全体の32%と女性の負担が大きくなっていることがわかりました。また、育児休業制度を利用したことがある人の割合は女性が約23%、男性が1.4%と男性の育児休業取得者は非常に低い結果となりました。育児休業を取得しなかった理由として一番多かった回答が「利用する必要がなかった」が64.2%と高く、③親からの支援が大きいと考えられますが、女性の仕事、家事、育児の負担が大きく、年々、出生率

は減少傾向にあると推察されます。今後は、第3次佐渡市男女共同参画計画に基づき、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進により一層取り組む必要があります。

○社会減数は改善傾向にあるものの、若年層の市外への流出が大きな要因となっています。しかしながら、UI ターンサポートセンターと連携し、若者定住支援数は大きく目標を上回る結果となりました。引き続き、若者、子育て世代に向けた補助制度の情報発信などに取り組んでいきます。

<各施策の KPI>

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
1	ア出会いから結婚までのサポート	市が実施する出会いイベント等によるカップル成立数（組/年）	11	12	6	0	0	0	50	①	平成 29 年度より事業廃止
2	イ出産や子育てしやすい環境づくり	出生数（人/年）	344	382	330	284	260	248	440	③	年間出生数は減少傾向にあり、計画策定時より 100 人弱減少している。 若者の就業から結婚に向けた対策等、関係課と連携しながら子育て支援の充実を図っていきたい。
3		親子や子ども同士が気軽に集える場所（子どもの居場所）（箇所）	4	5	5	4	4	4	9	③	今後も広く団体等に周知を図り、子どもがつかなく地域の居場所づくり事業として要綱等の見直しを検討し、利用しやすい事業とする。
4		しまびとジュニア支援事業（若者相談、子ども家庭相談、発達支援）相談者数）人（人）	237	329	475	475	581	645	400	①	関係機関との連携が図られ、相談件数も目標を大きく上回っている。今後は更に子育て・親育てのための啓発活動を関係機関と協働して実施していき、タイムリーな支援を展開する。

No.	政策別の 取組	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
5	ウ学校教育 及び就学支 援の充実	中学生の職場体験日数（日/年）	2.2	2.4	2.3	2.4	2.5	2.5	5	③	実際に職場に出向いての体験日は2.5日であるが、佐渡市が取り組んでいる課題解決型職場体験の取組では、事前・事後学習や生き方・働き方トーク等があり、それらの内容を加えると、各校平均6.7日取り組んでいる。今後は、事前・事後学習の時間も加えて実績をあげていきたい。
6		市内放課後児童クラブ（学童保育）延べ利用児童数（人/年）	31,000	39,775	45,820	46,900	50,933	57,719	32,500	①	学童保育ニーズの増加により利用児童数は目標値を大きく上回っているが、地域によってかなりの人数差がある。地域の状況や利用実態に合わせた施設の整備・整理を計画的に行う。
7		ファミリーサポートセンター延べ利用数（件）	400	383	362	98	124	99	500	③	目標値は未達成であるものの、核家族やIターンなど地域に頼る者がいない者にとって必要なサービスである。会員のニーズを把握しながら、サービス内容の改善など事業拡充に取り組む。
8	エ移住・定住の推進	若者定住支援数（人/年）	25	24	43	62	56	130	80	①	UIターンサポートセンターと連携し、佐渡暮らしについて情報発信を実施した。若者、子育て世代に向けて補助制度をなどの情報発信を行っていく。

基本目標4 特色ある持続可能な地域をつくり、島の安全・安心を確保する

<基本目標の KPI>

No.	指標	計画 策定時	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 実績	H30 年度 実績	R1 年度 実績	目標値	達成 状況	実績に対する 評価・今後の方針
1	これからも佐渡市に住み続けたいと思う人の割合 (%)	72.7	-	-	-	-	-	80.0	③	H30 年度市民意識調査を実施したが、当該項目について調査を実施していない。しかし、佐渡市の取組みに対する現状の満足度は極めて低い。調査結果で得られた重要度の高い取り組み、活性化にとって必要なことを再度検証し、住みやすい環境づくりを進めていく。
2	自主防災組織率 (%)	88.0	89.4	89.8	89.6	89.9	89.7	100	②	自主防災組織の組織率については、概ね達成していますが、市街地での集合住宅における組織率が低い状況です。引き続き、支所等と協力しながら新たな組織結成に向けた取り組みを進めていく。

【総合分析・評価】

○自主防災組織率は目標に対し概ね達成しています。引き続き、集合住宅を中心に、「自分たちの家族や地域は自分たちで守る」という考え方に基づいた、地域住民が主体となった組織結成の取り組みを進める必要があります。災害に強い安心・安全な地域づくりに重点をおき、住みやすい環境づくりを推進します。

<各施策の KPI>

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
1	ア地域の拠点づくりと活力の再生	元気な地域づくり活動支援件数（件）	106	102	81	87	64	58	150	③	地域の要望に応じて支援したが、目標値には達しなかった。 事業実施に関わる人数（活動人口）により各事業を評価し、予算の範囲内で支援していきたい。
2		地域おこし協力隊定着率（%）	0	67	76.9	70	80	80.8	80	①	H31 年度は退任 6 名のうち 5 名が定着した。 今後も、定着率の増加に繋がる支援をしていきたい。
3	イ地域で安全・安心に暮らせる体制の整備	しまびと元気応援団自主活動グループ（団体）	35	35	31	26	31	32	50	③	グループ数は H30 年度 31 G（延べ 32,643 人）、R 元年度 32 G（延べ 26,521 人）と 1 G 増えた。活動人数はコロナの影響で活動を自粛したこともあり減少したが、自主的な活動はほぼ毎日各地区で行われており、活動回数は 1487 回だった。 しまびと元気応援団発足当時から活動しているメンバーも多くメンバーの高齢化が進んでいる。新規参加者が増えているグループもあるが、今後も新規参加者を増やすために活動を周知することと自分達で活動するだけでなく、グループ同士や関係機関、団体等ともつながり、活動を広げていきたい。

No.	政策別の取組	指標	計画策定時	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	目標値	達成状況	実績に対する評価・今後の方針
4	イ地域で安全・安心に暮らせる体制の整備	健康づくり教室（競技種目以外）指導者数（人）	0	15	24	24	24	24	30	②	本指標の指導者に限らず、今後も指導者の育成に取り組んでいきたい。
5		さどひまわりネット登録率（%）	24	25.6	25.6	26.6	28.5	30.1	30	①	H30年度から後期高齢者の健診結果を反映させるために、健診会場での同意を取っているため、実績が向上した。
6	ウ地域防災体制の充実と活動拠点の整備	地域防災リーダー認定、登録者数（人）	150	217	216	216	216	216	300	③	認定要件となっている防災士の資格取得に係る費用が高額であることがネックになっていると思われる。このため、資格取得費の補助制度をR1年度に創設したが、実績としては0人であった。今後は囑託員会議等の機会を利用し制度周知をしたい。

第3章

1. おわりに

2020年度から始まる第2期「総合戦略」の策定に向けて、地方創生に向けた支援、第1期「総合戦略」について検証結果をまとめました。

地方創生として目指す将来像の設定に対し、そこに至るまでの現状の構造的な課題が定量的な分析により明らかにされていないため、KPIの立て方が「客観的な成果」を表す指標、事業との「直接性」のある効果を表す指標、「適切な水準」の目標が設定されておらず、未達成の数値目標が半数以上となりました。

第2期「総合戦略」の策定に向けては、目指す将来像及び課題の設定等とKPIの関係が、将来像と因果関係のある課題設定になっているのか、課題解決に資する事業内容となっているのか、課題が解決していることがわかる指標になっているかの3つの点に留意し、最上位計画と一体的な計画としていく必要があります。